

## 《創作作文》「春風をたどって」のつぎ

アクトン 小二

きせつが夏にかわりました。ノノンとルウはほんのりとあまい、かすかなにおいをたどっています。しげみをかきわけながら前に進んでいます。

しげみややっどとぎれたかと思うと、まっ白な色かとびこんできました。目の前にあったのは見わたすかぎりのまっ白な綺麗なゆり畑でした。そこにさく花をよく見ると、雪をかぶった白一色の山々のしゃしんのよな花びらがあります。



そのけしきのうつくしさにルウたちは見とれました。本物の雪にもった山々にいると、こんないいきもちがするのかな、とルウは思いました。

「こんなきれいなものみたことないや。」  
ルウはそうささやいてから、だまって見つけました。何時間待ちつづけていたのでしょうか。ついにノノンが言いました。

「おそくなってきたから、ぼく帰るね。ルウはどう。」  
ルウが空を見ると、日がしずみ始めているのに気がつきました。

「ぼくはしばらくゆりをながめることにするよ。」  
うっとりしながら、ルウは言いました。  
「近くにもほかのすてきな所もあるかも。あした、またノノンとさがそう。」

【評】『春風をたどって』の物語の続きを想像して、すてきなお話を考えられましたね。白一色のゆり畑をずっと見ていたいルウの気持ち伝わってきます。

## 《手紙》ぐうちゃんへの返事

アクトン 中二

ぐうちゃんへ  
手紙を受け取って読んだよ。ぐうちゃんの力強い字がぎっしり入っていて気持ちいいよ。そしてぐうちゃんが僕に詳しく話してくれたアイスプラネット美しいね。それから、やっぱりあんなにでかいナマスがいるとは思わなかった。ぐうちゃんをせめたりしてごめんね。ぐうちゃんが家を出ていく時は、いつていらっしやいぐうらい言いたかったけど言えなかったんだ。最後まですなおに謝れなくてごめん。いろいろな写真を送ってくれて、ありがとう。こんどはできればアナコンダが馬を食べようとする瞬間の写真を送ってほしいな。またいつか家に帰ってきてぐうちゃんのおもしろい経験聞かせてよ。まってるよ。



原島 悠太より

【評】授業の最後に、ぐうちゃんからの手紙に悠太になったつもりで、十分間で返事を書きました。気持ちいいです。

## 《詩歌》春のおさんぽ

クワイドン 小二

春になったら、花ふんしょうのくすりをのんで、大すきなこうえんで、桜もちとか、いちご大かくをたべたいな。しばふの中にねころんだら、チューリップとばらのまわりで、はちがブンブンとんでいたよ。



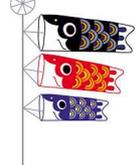
春のおさんぽ、春がいっぱい。

【評】題名を工夫して春の様子が楽しく書きました。暖かい春の公園で、桜餅や大福を食べたら、より一層おいしく感じるでしょうね。

## 《日記》きょうの日

フレント 小二

五月五日、わたしはおりがみでこいのぼりをつくりました。りつたいてきに、大中小をつくりました。一ばん上には、かぎ車のかわりにしゅりけんをつけました。こいのぼりには、人生というながれの中でそうぐうするなんかんを、こいのようにとばして、せいちょうしてほしいというねがいがかめられています。わたしには、男の子のきょうだいがないので、ほんものはもっていないけれど、やつがただで空いっぱいこいのぼりを見ました。



【評】こいのぼりについて、詳しく分かりやすく書くことができました。

## 《物語エッセイ》帰り道エッセイ

アクトン 小六

「じゃ、また明日ね。」

ぼくは周也に言った。今日は本当に不思議な日だった。もうすっかりかわいた道に西日が差しているのを見ながら、ぼくは思った。もしかしたら、明日から周也ともっと腹をわって話せるかもしれない。そんな未来への希望をだきながら、ぼくは走り去った。

「またな。」

ぼくは律に返した。前まで、ぼくはこんなに律と分かり合えたことはなかっただろう。そんな気がした。もうこれからは、ピンポン球を乱打することは減る気がする。そして、明日学校に行ったら謝ろう。ぼくの昼休みに言ったことについて。夕焼けで赤に染まった空を見上げながら、ぼくは家への道を急いだ。

【評】それぞれの帰り道の様子から、律のすがすがしい気持ち、周也の晴れ晴れとした気持ちが伝わってきます。

